



日本語としまむにの音の対応

たいおう



ポイント

- 1 日本語の「才の段」は、しまむにの「ウの段」
- 2 日本語の「工の段」は、しまむにの「イの段」
- 3 日本語の語頭の「カの行」は、しまむにの「ハの行」



しまむには琉球の言葉(琉球諸語)の仲間です。日本語と琉球諸語は、遠い昔に同じ祖先から分かれた言葉なので、基本的な単語の60%~70%が、同じ語源を持っています。そして、同じ語源を持つ単語同士には、規則的な音の対応があります。この「音の対応」が分かると、日本語からしまむにの単語を予想することができます。ここでは、日本語としまむにの「音の対応3大ルール」を紹介します。

ルール1

日本語の才(o)の段は、しまむにのウ(u)の段

日本語の才(o)の段は、しまむにのウ(u)の段になります。例えば、体の「腿(もも)」は、才の段をウの段に変えると「むむ」となるので、しまむにでは「むむ」と予想できます。

日本語	しまむに
腿(もも:momo)	むむ(mumu)
戸(と:to)	とうー(tuu)
星(ほし:hosи)	ふし(husi)

ルール2

日本語の工(e)の段は、しまむにのイ(i)の段

日本語の工(e)の段は、しまむにのイ(i)の段になります。例えば、「雨」は、工の段をイの段に変えると「あみ」となるので、しまむにでは「あみ」と予想できます。

日本語	しまむに
目(め:me)	みー(mii)
根(ね:ne)	にー(nii)
雨(あめ:ame)	あみ(ami)



ルール3

日本語の語頭の力(k)の行は、しまむにのハ(h)の行

日本語の語頭の力(k)の行は、しまむにのハ(h)の行になります。例えば、「鏡(かがみ)」は、語頭の力の行をハの行に変えると「はがみ」となるので、しまむにでは「はがみ」と予想できます。この力の行とハの行の対応は、琉球の言葉の中でも、沖永良部・与論・沖縄北部の方言だけが持っている特徴です。

日本語	しまむに
木(き:kī)	ひー(hīi)
肩(かた:kata)	はた(hata)
鏡(かがみ:kagami)	はがみ(hagami)

練習問題

いろいろな体の部分の名前を、自分の集落ではなんというか聞いてみましょう。
そして、日本語と音の対応がある単語を探してみましょう。

